

ススキ



秋の訪れを告げる

ススキに寄生する
ナンバンギセル

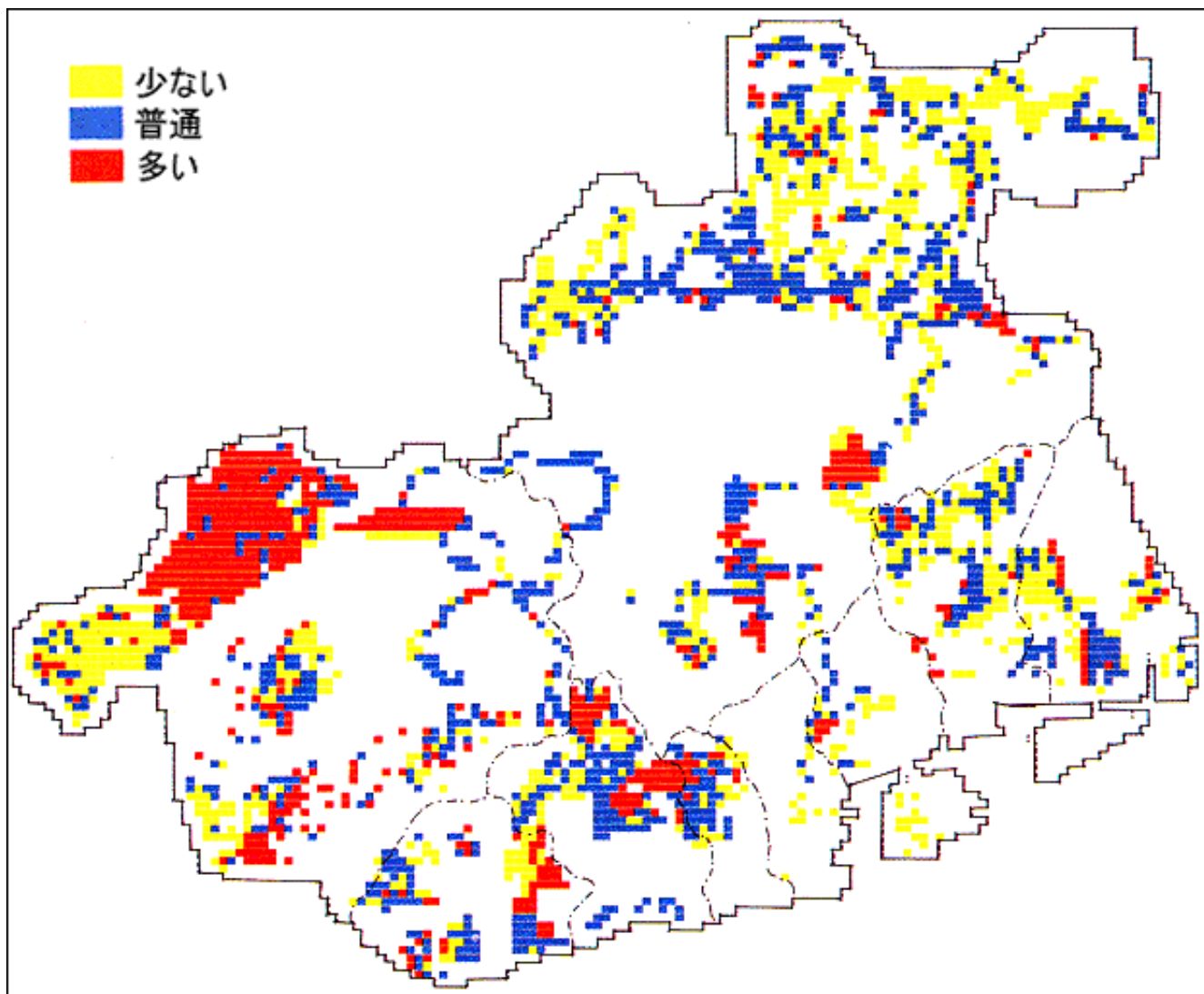
ススキ（花期8～10月）

どこの草原にもある大型の多年草です。茎は直立し、大きく伸び2メートルに達するものもあります。葉は互生し、細長い線形で中脈は白く、下の方は長いさやになって茎を包むようになっています。葉のへりは、ざらついて硬く、手が切れることがあります。これは歯のふちに鋭いきょ歯（珪酸体を含み硬い）がついているためです。

茎の先に大きな花穂をつけ、花穂は細長い短い枝に分かれ、全体に黄褐色か紫がかかった褐色をしています。

名前のおこりは、まっすぐにすくすく芽が出ることからおこっています。秋の七草のひとつです。

オギはススキに似た草ですが、ススキよりも湿った土地に生え、ふさふさした花穂をつけています。

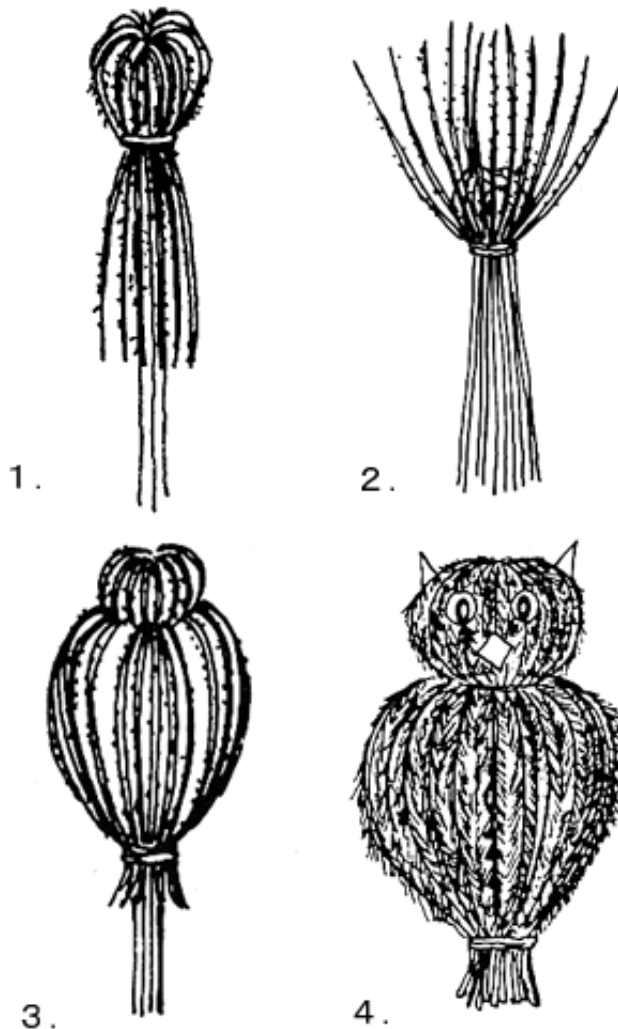


新勢力に負けないススキ

セイトカアワダチソウが外国からきた植物（帰化植物）の秋の代表とすれば、ススキは日本古来の秋の花です。ところが、カンサイタンポポが帰化植物のセイヨウタンポポにその座を奪われているように、ススキもセイトカアワダチソウに競り負けるのではないかと心配されています。今回の調査でススキは、ほぼ神戸市全域にわたって分布するのが分かりました。確かにセイトカアワダチソウと隣り合って生えています。詳しく観察するとススキの多い所に入ってきて、ススキが群がって生えている株の中まで入ってこないようです。黄色の花のセイトカアワダチソウのほうが目立つから、さきのような心配もおこったのでしょうか。ススキはがっちりと自分たちの城を守っています。

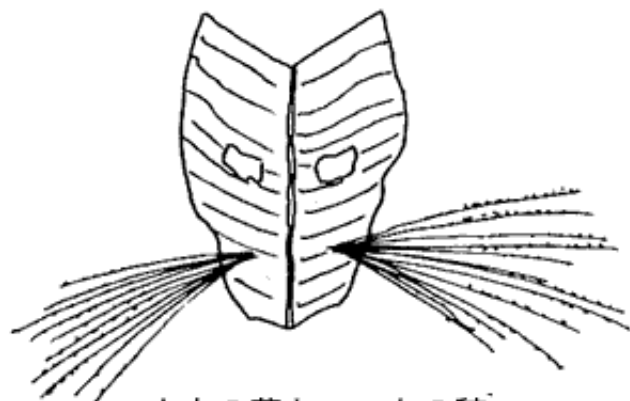
萩（はぎ）、尾花（おばな）、葛（くず）、撫子（なでしこ）、女郎花（おみなえし）、藤袴（ふじばかま）、桔梗（ききょう）と秋の七草の一つの尾花がこのススキです。子供たちに季節感を味わさせることができます。ススキの葉や穂を使っていろいろなものを作ったり遊んだりできます。

フクロウ



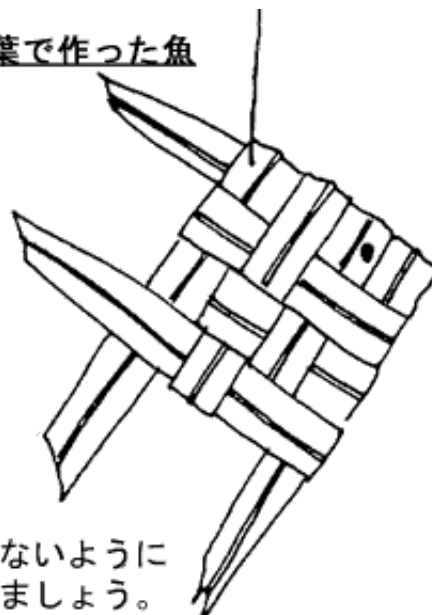
1. 頭づくり：3～4本のススキの穂でつくります。
2. 6～8本の穂で1をとりにかこみ、糸でしばります。
3. 穂をまげて体をつくります。
4. 目と鼻と耳をつけて完成です。1週間ほどするとふんわりしてきます。

狐の面



ホウの葉とススキの穂
を使って作ります。

ススキの葉で作った魚



手を切らないように
気をつけましょう。

